

神戸東部支部

神戸東部支部は、高齢化の進む震災復興住宅を中心に、「ルネシティ（災害復興住宅）」「コミュニティプラザ（県営住宅）」「県営脇浜住宅」「脇浜住宅地域福祉センター」で拠点活動を行っており、多くのリピーターの方に利用されています。

住民の方は、健康意識の高い方が多く、拠点で骨密度や血管年齢の測定を行うと、50名以上の方が来場されます。また、病気や薬・診療科の選択や介護など悩みを話していただき、地域病院のボランティア看護師に気軽に相談出来る場所になっています。

拠点の活動

各拠点は特徴があり、県営脇浜住宅では、ボランティアがミニ講話の開催を行っています。ルネシティでは、食事会に参加して、住民とコミュニケーションを図りながら、ゆっくりと相談を行います。また、コミュニティでは、支援援助員との報告会に積極的に参加して、情報共有を行っています。脇浜住宅地域福祉センターでは、あんしんすこやかセンターの職員と協力して、健康相談や血管年齢測定を行っています。以前、もう一か所、商店街の中に拠点を開いていましたが、残念ながら自治会の高齢化により、活動の世話取りを続けていくことが困難となったため、閉鎖することになりました。

しかし、今年度新しく、ポートアイランドの兵庫医療大学が加わり再度5拠点を活動することになりました。オープンキャンパスや大学祭で、ヘモグロビン測定器などの機器を活用し、健康相談コーナーをしています。大学の周辺地域の老若男女に、「まちの保健室」を知って頂く良い機会になり、うれしく思っています。



拠点活動：兵庫医療大学



県営脇浜住宅

出前隊の活動

地域のイベントに参加する出前隊では、なだの桜祭りやフリーマーケットに出かけていき、一角にブースを設置します。住民の方々とお話をしながら、血圧測定や体脂肪測定・健康相談を行っています。

春に行われたなだの桜祭りは、寒の戻りの影響で桜がほとんど咲いておらず、肌寒い天候でしたが、子供から高齢者まで多くの方が来場されました。

11月に行われたまちづくりマーケットで、受けた相談の一つをお話します。車椅子でダウン症の娘さんをつれた母親が、調子悪いと来所されました。母親は血圧が高かった為、受診を促しました。娘さんが母親の体調を心配されていた為、母親の測定中に、娘さんの話を伺いました。このように、病院受診前の住民の方に寄り添いながら、看護を行っています。



出前隊：なだの桜祭り



出前隊：まちづくりマーケット

私たち神戸東部支部は、今後も住民が気兼ねなく相談できる、地域に根ざした、「まちの保健室」を、住民の皆さまのご協力頂きながら、活動していきたいと思っています。

ボランティアの声



脇の浜地域福祉センターでの活動は毎月第4水曜日13時から15時に行っています。

会場は1階フリースペースで、図書やソファに囲まれたリラックスできる空間です。

センター内の他の部屋では、カラオケ大会や囲碁、英会話教室なども開催されており、自由に出入りできる空間となっています。施設の事務の方には会場設営をご協力頂くこともあります。また、あんしんすこやかセンターの担当の方は、地域の方に声を掛けて下さり、時には車いすなどで一緒に来場いただくこともあります。自治会長さんは毎回参加頂きます。今年度からは新規に4名のボランティアの参加があり、これからの活動が楽しみです。

ルネシティ脇の浜では、集会所で民生委員さんが毎月食事会や七夕まつり、クリスマス会等のイベントを開催されます。その傍らで、年10回「まち保」を開催し、血圧測定、健康相談や出前隊として骨密度、血管年齢測定を行います。あんしんすこやかセンターのスタッフと情報交換を行ったり、兵庫県警の方が振り込み詐欺の事例を紹介したりと、協力して地域住民が安心して生活が送れるように活動しています。来所者は、70歳から90歳代で、殆どがリピーターです。「まち保」が終了しても皆さんで談笑されるのがいつもの光景となっています。住宅を離れても楽しみに通われて来る方もいらっしゃいます。

「まち保」は居場所として、また、身近な健康相談場所として地域住民に愛されています。



一緒にボランティアをしませんか？

神戸東部支部は、子育て世代の支援や高齢化の進む地域社会に対応するためにも、あんしんすこやかセンターのスタッフや地域の自治会と連携して、幅広い活動を行っていきたくて考えています。経験の有無は関係ありません。住民の声を聞くボランティアの協力が必要になっています。気軽に、ボランティアに参加してみませんか。きっと良い学びと楽しい時間を過ごすことができると思います。ぜひ、一緒にボランティア活動をしましょう。楽しいボランティア仲間がお待ちしております。